

博士（教育学） ガルサンジヤムツイン・ウルズィネメフ

学位論文題名

ИСТОРИКО-СРАВНИТЕЛЬНОЕ ИССЛЕДОВАНИЕ  
ДИСТАНЦИОННОГО ОБРАЗОВАНИЯ:  
УНИВЕРСИТЕТ ТЕЛЕ И РАДИООБУЧЕНИЯ ЯПОНИИ  
`ХОСО ДАЙГАКУ ГАКУЭН、`

（遠隔教育の歴史的比較的研究－日本の放送大学学園を事例として）

学位論文内容の要旨

21世紀への入り口に立って我々は、20世紀は人類史におけるユニークな世紀の一つであり、科学・技術進歩の世紀、人間生活のあらゆる分野におけるグローバル化、民主化の世紀であった、と総括できる。グローバル化と民主化の過程は教育の分野にも例外なく押し寄せ、つい最近までその発生や発展を予想できなかったような、新しい科目や、新しい教育研究の領域を切り開いた。そのような教育制度の新しい分野としての遠隔教育の誕生と発展は、教育分野におけるグローバル化と民主化の典型的な一事例であった。

世界の多くの国々で1970年代以降ひろく用いられる専門用語となった遠隔教育は、もともと簡単な印刷された手段に始まり、ラジオ・テレビを通じた授業、さらに衛星放送を利用したものに至る、様々なコミュニケーション手段を通じた教授・学習システムを意味する。

遠隔教育の誕生と発展は、様々な社会・経済的及び政治的な理由、時には、人種的な差別にも基づく理由から教育に接近できないことがあった広範な住民大衆を、教育の世界に近づけることを可能にした。新しい教育システムは、地理的、物理的な距離という要因に関わらない－これがこのシステムの特徴である－教育を受ける機会をもたらした。遠隔教育は、知識、技能、能力を伝達するシステムを容易にし、また、サービスを提供する者と利用者となりうる者との関係を根本的に変えたのであった。

本研究の目的は、日本における遠隔教育システムの発展の歴史的・比較的分析であり、具体的には、1983年に設置され、日本における先導的な遠隔教育機関となっている放送大学の、歴史的発展を遠隔教育の世界的な広がりの中で分析すること－これは問題のきわめて多様な相を含むと予想される－を通して行うことである。

本研究の今日性と新しさは、遠隔教育を専門に行う日本の個別の教育機関の事例が他の類似の遠隔教育機関との関連において分析されたことがほとんどなかった点にある。日本においては、放送大学に関する歴史的な研究は、ごく数えるほどの論文を例外として、ほぼ存在しないが、この大学は世界的に見てもユニークでパイオニア的でもある。それとともに、この大学は、日本だけにしか見られない特質と特徴も有しているのである。この論

文では、放送大学の設立と発展にともなう問題、教育システムや教授・学習システムの歴史的分析、学生層の分析、他の教育機関との比較的分析、今後の見通し、等を研究対象とした。

本研究の基本的な方法は、歴史的及び比較的分析の方法である。本研究の時代的な枠は、1840年代から今日に至る比較的長期の時間的範囲をカバーするが、主たる重点は、日本だけでなく世界全体において遠隔教育の嵐のような発展が見られる、最近30年のことに置かれる。

本研究における一次資料としては、日本の放送大学の発展の契機と段階を映し出す、ごく多様な資料が用いられた。主要な一次資料となったものは、日本の国会の衆議院・参議院の文教委員会議事録、及び放送大学の問題に関して文部省で開かれた会議の記録、責任者が参加している会議・協議会の資料、放送大学の設置に関わる企画への直接参加者の公表された回想記類、責任者たちへのインタビュー資料、同大学の教授・講師たちへの聞き取りの資料であり、さらに放送大学・北海道地域学習センターの聴講生・学生へのアンケート、等々である。

第1章において遠隔教育の歴史と現代の展開過程を分析し、遠隔教育の基本的な概念や理論を明確にした。遠隔教育そのものについての科学的研究は1960年代に始まり、チャイルドズ（リンカーン大学、1963年）、ウェドマイヤー（ウィスコンシン大学、1963年）、ホルムバーグ（スウェーデン、1960年）等々の遠隔教育学者により様々な理論が提起された。その中で、最も重要な理論は、自己学習についての理論、教育の産業化についての理論、コミュニケーションについての理論である。第2章において遠隔教育の用語の発展（通信教育；家庭学習；自己学習；学外学習；遠隔教授；遠隔学習；遠隔教育）や遠隔教育に関する定義を分析し、世界での遠隔教育の発展史を技術的進歩に基づき分類し、分析した。第3章において、日本の放送大学学園の設置に関する史料に基づき、同大学の設立準備過程の歴史的分析を行い、放送大学の基本構想の誕生や設立のための基本計画の概念等の分析を試みた。同時に、放送大学の新設における諸問題を分析した。第4章において国会における放送大学設置問題の審議過程を国会議事録に基づいてまとめた。放送大学学園法案は、1979年2月23日の第87通常国会以来第88国会、第91国会に提出され、廃案となり、第93国会でようやく衆議院を通過し、参議院で継続審議とされた。第94国会においては、1981年5月29日に参議院を通過し、直ちに衆議院に送付され、6月4日に衆議院において可決した。法案審議は132時間余りで、文教関係法案では戦後最長の審議時間をかけていた。国会の審議で問題として指摘された様々な問題は、放送大学学園及び放送大学に対する文部大臣の権限、評議会と教授会の関係、学問の自由、現存する日本の放送体制の変更、対象地域の拡大計画等であった。

第5章において放送大学における教育と運営システムや教育システムの分析を行った。また、北海道地域学習センターの受講生の出自や動機を分析した。1999年10月22日-23日に行われた「社会の発展と教育の歴史」という面接授業でアンケート調査を行い、学生の学習に関する意見や放送大学における学習の良い点や弱点等を明らかにした。

今後の課題として、1) 日本における通信教育の歴史的研究、2) 世界における様々な教育レベルで提供されている遠隔教育の実践、3) 放送大学の学習者の意識調査等を行いたいと思う。

# 学位論文審査の要旨

主 査 教 授 竹 田 正 直  
副 査 教 授 逸 見 勝 亮  
副 査 助 教 授 所 伸 一

学 位 論 文 題 名

## ИСТОРИКО-СРАВНИТЕЛЬНОЕ ИССЛЕДОВАНИЕ ДИСТАНЦИОННОГО ОБРАЗОВАНИЯ: УНИВЕРСИТЕТ ТЕЛЕ И РАДИООБУЧЕНИЯ ЯПОНИИ `ХОСО ДАЙГАКУ ГАКУЭН、

(遠隔教育の歴史的比較的研究－日本の放送大学学園を事例として)

20世紀は人類史におけるユニークな世紀の一つであり、科学・技術進歩の世紀、人間生活のあらゆる分野におけるグローバル化、民主化の世紀であり、それらは教育の分野にも例外なく押し寄せ、前世紀にはその発生や発展を予想できなかったような、新しい教育研究の領域を切り開いた。教育制度の新しい分野としての遠隔教育の誕生と発展は、教育分野における科学・技術の進歩とグローバル化、民主化の典型的な一事例である。

世界の多くの国々で1970年代以降ひろく用いられる専門用語となった遠隔教育は、もっとも簡単な印刷教材による通信教育に始まり、ラジオ・テレビを通じた授業、さらに衛星放送を利用したものに至る、様々なコミュニケーション手段を通じた教授・学習システムを意味する。

遠隔教育の誕生と発展は、様々な社会・経済的及び政治的な理由、時には、人種的な差別に基づく理由から教育に接近できなかった広範な住民大衆を、教育の世界に近づけることを可能にした。新しい教育システムは、地理的、物理的な障害をこえて教育を受ける機会をもたらし、遠隔教育は、知識、技能、能力を伝達するシステムを容易にし、また、教育を提供する者と教育を受ける者との関係を根本的に変えた。

本研究の目的は、日本における遠隔教育システムの発展の歴史的・比較的分析であり、具体的には、1983年に設置され、日本における先導的な遠隔教育機関となっている放送大学の歴史的発展を、遠隔教育の世界的な広がりの中で分析することである。

本研究の今日性と新しさは、遠隔教育を専門に行う日本の個別の教育機関の歴史的展開を、世界の他の類似の遠隔教育機関との関連において分析したことにある。日本においては、放送大学に関する研究は、放送技術面中心の研究か、地域的効率的配置を論じた研究のみであり、歴史的研究はごく少数である。

本研究の基本的な方法は、歴史的及び比較的分析の方法である。本研究の対象の時代

枠は1840年代から今日に至る長期の範囲をカバーしているが、検討の重点は、わが国のみならず、世界各国において遠隔教育の嵐のような発展が見られる、最近30年の展開である。

本論文が審査において高い評価を受けたのは次の諸点である。

第1は、放送大学の発展の契機と段階を反映する、極めて多様な一次資料をもちいて研究している点である。すなわち、衆議院・参議院の文教委員会議事録、及び放送大学の問題に関して文部省で開かれた会議の記録、関係者が参加している他の省庁の会議・協議会の資料、放送大学の企画と設置に直接関わった者の回想記、責任者たちへのインタビュー資料、同大学の教授・講師たちへの聞き取りの資料をもちいていること、さらに放送大学・北海道地域学習センターの聴講生・学生へのアンケート調査を行っていること、等々である。

第2に、世界の遠隔教育の歴史と現代の展開を分析し、遠隔教育の基本的な概念や理論を明確にしたことである。本論文は、遠隔教育についての本格的な研究が1960年代に始まり、自己学習についての理論、教育の産業化についての理論、コミュニケーションについての理論を提起したことを博搜・分類し、また、遠隔教育の用語の発展（通信教育；家庭学習；自己学習；学外学習；遠隔教授；遠隔学習；遠隔教育）を跡づけ、世界の遠隔教育の発展史を叙述した。

第3に、日本の放送大学学園の設置に関する史料に基づき、かつ、国会議事録等の精読によって、同大学の設立準備過程の歴史的分析を行い、放送大学の基本構想の誕生や設立のための基本計画等を明らかにしたことである。国会での法案審議は132時間余に及び、文教関係法案では、戦後、最長の審議時間であった。本論文は、国会の審議で問題として指摘された、放送大学学園及び放送大学に対する文部大臣の権限、評議会と教授会の関係、学問の自由、現存する日本の放送体制の変更、対象地域の拡大計画等を克明に分析した。

第4に、放送大学における運営システムや教育システムの歴史的研究を行い、さらに、北海道地域学習センターの受講生の出自や動機、意識をアンケート調査によって、生き生きと描写し、叙述したことである。

今後の課題としては、1) 日本における通信教育を含む遠隔教育の制度的研究、2) 世界における様々な教育レベルで提供されている遠隔教育の実践研究、等があげられる。

以上の審査によって、著者は、北海道大学博士（教育学）の学位を授与される資格があるものと認める。